

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2370500577
法人名	有限会社 前田商店
事業所名	ルミエ
所在地	名古屋市中村区大宮町3-61 (電話) 052-471-0271
評価機関名	愛知県社会福祉協議会 施設福祉部
所在地	名古屋市中区丸の内2丁目4番7号 愛知県社会福祉会館
訪問調査日	2007年7月5日

【情報提供票より】 (19年6月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 6月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤	4人, 非常勤 4人, 常勤換算 3.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,600 円			

(4) 利用者の概要 (7月5日現在)

利用者人数	7名	男性	名	女性	7名
要介護1	0	要介護2		1	
要介護3	3	要介護4		1	
要介護5	2	要支援2			
年齢	平均 87歳	最低	81歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鵜飼病院 きとう内科 みやうら歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者と職員の1人が家族であり、2人でホームを住居としているので、夜間の対応が手厚く行うことができる。街の中にあるホームであり、バス停まで1分という立地条件を生かし、市バスを利用した食事などの外出をしており、入居者の楽しみごとのひとつであり自立支援策として有効に活かしている。20代~60代と幅広い職員が在籍しており、思い出話に共感できる年代の職員もおり、多彩な職員構成である。職員の2~3名はホームの近隣に住居があり、災害や緊急時の応援体制もできている。また、家族が気軽に訪問したり、連絡や相談できる関係ができており、職員や入居者および家族がひとつの大家族のような雰囲気を持つグループホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を踏まえ改善計画を作成し取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者が評価の意義やいかし方を理解しており、自己評価を全職員で行いサービスの質の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 構成メンバーは利用者家族3名、民生委員1名、学識者1名で運営し、議事録もある。事業所の役割としてショートステイの利用について意見があり、取り組みを検討している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月、家族便りにて現在の報告をしており様子を知らせている。また、金銭管理は出納伝票に記入して家族に見ていただいている。家族の意見や苦情、不安への面談は面会時間以外でも随時対応しており反映している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 代表者とその家族である職員の一人は、以前から地元に住んでおり、日々の散歩や買い物、災害訓練などで地域住民と交流を図る機会を作っている。
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安全と安心、創造的ケア、信頼関係の継続、利用者中心の真剣な介護を事業所理念の柱にしている。	○	今後も継続して地域の中で暮らし続けることを支えていくサービスができるよう理念を持ち続けていくことが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	声かけや態度などの日々のサービス提供場面において、管理者と職員は理念を共有し、実践に取り組んでいる。	○	今後も理念を共有し、理念の実践に取り組んでいくことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域的に、運動会や盆踊りなどの町内行事がほとんどないところではあるが、散歩時の声かけや見守り、買い物など地元の方との交流は少しずつできている。	○	保育園行事、防災訓練などに参加し、地元の方との交流の取り組みの検討が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。また、外部評価の結果を踏まえ、改善計画に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族や民生委員、地域の学識経験者に参加してもらい、運営推進会議を開催されている。その中で事業所の役割として、緊急および計画的なショートステイ利用についてメンバーからの要望や意見がでて、取り組んでいる。	○	2ヶ月に1回は、定期的な会議開催ができるように、関係者との調整の検討が望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護支援専門員として居宅支援事業に関わっていたことで区役所の職員との信頼関係、交流は十分できている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来所時や月に一回の便りを送付しており、暮らしぶりや健康状態を知らせている。	○	今後も入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理などを家族などに定期的に報告していくことが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者や苦情受付窓口があり対応しており、また、時間を決めずに来所時に常に話を聞いて運営に反映するよう図っている。	○	今後も家族や意見や不満、苦情を管理者や職員や外部者へ表せる機会を設けることを継続していく取り組みが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動がほとんどなく固定化されており、入居者にとっては馴染みの職員との信頼関係ができている。また、勤務時間や曜日を固定化し、職員の異動による入居者への影響を最小限にとどめている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が計画的に参加できるよう出勤扱いとし資格習得に努めている。また研修終了後全職員へ報告、伝達を行い質の向上に努めている。	○	今後も継続して職員を育てる取り組みが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市内の認知症高齢者グループホーム協会との交流はないが、全国認知症高齢者グループホーム協会に所属している。	○	他のグループホームへの見学や研修会を通じて、事業所間のネットワーク作りを図りサービスの向上の取り組みの検討が望まれる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が安心して事業所での生活が馴染めるように本人の自宅や周辺に出向いたり、家族や関係者から情報収集して安定的な利用に移行している。	○	今後も本人が安心して、納得した上でサービスを利用できよう工夫し継続していくことが期待される。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お互いが協働しながら穏やかな暮らしができるよう入居者の生活暦を理解した場面づくりや工夫や声がけに配慮している。	○	今後も本人の思いや意向の把握を継続していくことが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや暮らし方を家族を交えて検討している。また、困難な方には本人本位に検討している。	○	今後も本人の思いや意向の把握を継続していくことが期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が自分らしく暮らせるように本人や家族の要望を聞き、スタッフ全員で話あって、介護計画の作成に生かしている。	○	今後も本人がよりよく暮らすためのケアのあり方について介護計画の作成を継続していくことが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人や家族の意見を聞いて、職員が日々の暮らしの中で状態の変化時や状況に応じて、3ヶ月に1回見直しをして作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を生かし利用者にとって負担となる入院の回避や重度化した場合や終末期の入院の回避に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者および家族の希望にあわせてかかりつけ医の受診の支援もできている。	○	今後もかかりつけ医の受診支援を継続していくことが望まれる。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合を想定し初期の段階からかかりつけ医や本人、家族と相談し、全員で終末期まで介護していく方針を共有し支援している。	○	今後も重度化や終末期に向けた方針の共有を継続していくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損なわないよう日々のかかわり方を職員全体で徹底している。	○	今後もプライバシーの確保の徹底を継続していくことが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしておらず、買い物や散歩など、一人ひとりの状態や思いを配慮しながら対応している。	○	今後も日々のその人らしい暮らしを継続していく取り組みが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは入居者と相談しながら決めている。入居者の生活暦から調理や盛り付け、片付けなどの習慣がない場合は、尊重している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの入浴したい日や希望する時間や早朝入浴、シャワーを浴びるなど積極的に対応できるように支援している。	○	今後も入浴を楽しむことができる支援を継続していくことが望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	グループホームの立地条件を生かし、市バスを利用した食事に出かけたり、買い物に行くなど支援している。また、ボランティアの協力を得て一泊旅行も行っている。	○	今後も役割や楽しみ、気晴らしの支援を継続していくことが望まれる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に出かけるときも希望を聞き、戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守り方法を徹底し、日中は玄関の鍵をかけない暮らしを支援している。また家族も自由に入出入りできている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近所で火事の発生があったのを機会に、避難場所の確認と避難訓練の方法を定期的に行っている。また、近所の協力も得られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が3名おり、一人ひとりの栄養摂取量や水分量を大まかに把握している。食事の種類、量も多いが利用者は残さず摂取できている。	○	今後も栄養摂取や水分確保の支援を継続していくことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付けや家具の配置で生活感や季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の状況を十分把握し、混乱のないよう使いなれたものや好みのものを置く配置にしている。		

※  は、重点項目。